

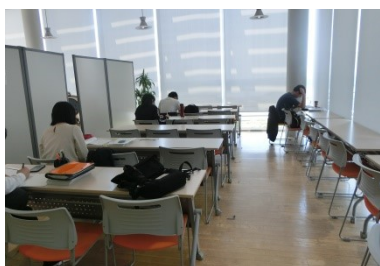
ワン・モア・ステップ

あびこプラス・ワン賛助会通信第3号

2019年7月8日発行

プラス・ワンは今

けやき教室は、



けやき教室で「うなぎちさん家」の使用を市民活動課と社会福祉課に勧められ、8階から移動しました。（10階は今まで通り、本部や学習室に利用しています）

うなぎちさん家の部屋が暗い話をしたところ、街協からライトスタンドの寄付の話をいただき、多くの皆さんの応援にあらためて感謝しています。

また先月「パソコン楽しみ隊」から中古のパソコンをいただきこの場でお礼申し上げます。

湖北駅前教室は、

中学生3人と小6の弟さんがこの3年近く“皆勤”で来ています。

スタッフは、つくばね会の石橋さんが中心で、4年前に共同で開講し、4人いて和やかに勉強を続けています。

高校生でフィリピンの方もいましたが、勉強に慣れたのか、3年生で忙しいのか、最近来ていません。

パキスタンの兄妹が父親に送迎をしてもらい来ていましたが、来なくなりその後が気になります。

湖北台教室は、

最近新しい人が増え、中でも高校中退し、また進学したいと言って熱心に取り組む青年がいます。

また中国の方で、日本に20年以上住んでいるがもっと日本語をちゃんと使えるようになりたいという方がいます。

団地への宣伝の結果、スタッフにも来てくれる人が増えました。湖北地域には特に宣伝はしたことがないので、知らない人が多いようで、これから口コミで伝われば良いと思っています。

うれしい話

4月にプラス・ワンを見学に来たある議員さんの紹介で、市長に面談する機会をいただきました。

そこで、子どもの学習の話題の中で、「子どもたちは上と下があって、上の子は自分でどんどんやるけれど、下の子ができないん

だよ」というのです。市長がそれを分かっているのなら、こちらの話をしっかりさせてもらいました。

具体的には私の提案への返事はないのですが、この話を他の議員さんたちへ伝えていこうと思っています。市長には次に会えるのが楽しみで、“学びの街づくり”を考えてほしいと思っています。



我孫子市子どもの学習支援ネットワークができ、私たちと同じような学習支援団体が集まって市への要望や、お互いの交流の相談をしています。

我孫子市で約9500人の小中学生がおり、約三割3000人近くの子どもの学習に苦しんでいる試算があります。

子どもの学習は“緊急事態”で、彼らは言わば学習困難「要支援者」と言っても過言ではありません。そこには100の放課後子ども学習室が必要です。

そういう子たちをどのように支援するのか、我孫子市は発表していません。

我孫子市には「子ども学習支援課」がぜひ必要です。

（文責 相澤）

